

速報

2月16日名古屋市は、

名古屋市立緑市民病院（現在、指定管理者運営）を令和5年（2023年）4月から「名古屋市立大学附属病院」へ経営移行を『名古屋南部地域医療連携推進協議会』全体会議で表明し、確認（了承を得る）しました！

現在、名古屋市立2病院を4月から「名古屋市立大学附属病院」へと運営移行が強行決定され、その準備が進められている中、「名古屋の公的医療を守る市民の会」を結成し、コロナ禍に於ける経営移行は延期することを求めて署名運動等を推進しています！ そんな中、名古屋市立緑市民病院は、制定管理者（医療法人「純正会」一名古屋市緑区、許可病床300床）に経営を委ね、2022年3月までの契約期間を当面1年延長する方向で、昨年1月から「緑市民病院のあり方を考える有識者懇談会」が開催（非公開）され検討されてきました。

名古屋市のHPでは、第2回懇談会を2月19日に開催の案内が一旦表示されるも、現在は削除され、この件に関する情報が、市民からは一切わからない状態にされています！

こうした状況の中で、2月16日開催された第2回『名古屋南部地域医療連携推進協議会』（この件の説明・承認だけを議題としていた）が開催され、大原名古屋市病院局・局長が「名古屋市立緑市民病院の今後の計画について」と題して報告しました。＊会議の詳細は、明らかにされていません！

会議で出された資料の一部を掲載します！

名古屋市立緑市民病院のあり方について（案）

緑市民病院のあり方について、地域密着型の医療を充実するとともに、地域で増加が見込まれる高齢者特有の疾患を有する患者に対応した質の高い医療を提供する必要があることから、方向性を以下の通りとしました。

1 病床数・病床機能

205床（急性期100床 回復期105床）

2 運営・経営

名古屋市立大学

3 時期

令和5年4月（予定）

4 主たる医療機能

○ 地域医療の充実

- ・在宅や介護施設への復帰支援のための地域包括ケア病棟の運営
- ・在宅医療等の地域医療支援の充実
- ・地域のニーズを踏まえた二次救急への対応
- ・感染症患者への対応

○ 先駆的な高齢者医療の提供

- ・高齢者特有の疾患等を有する患者に対して、地域の医療機関と連携しながら全人的・包括的な診療を実施

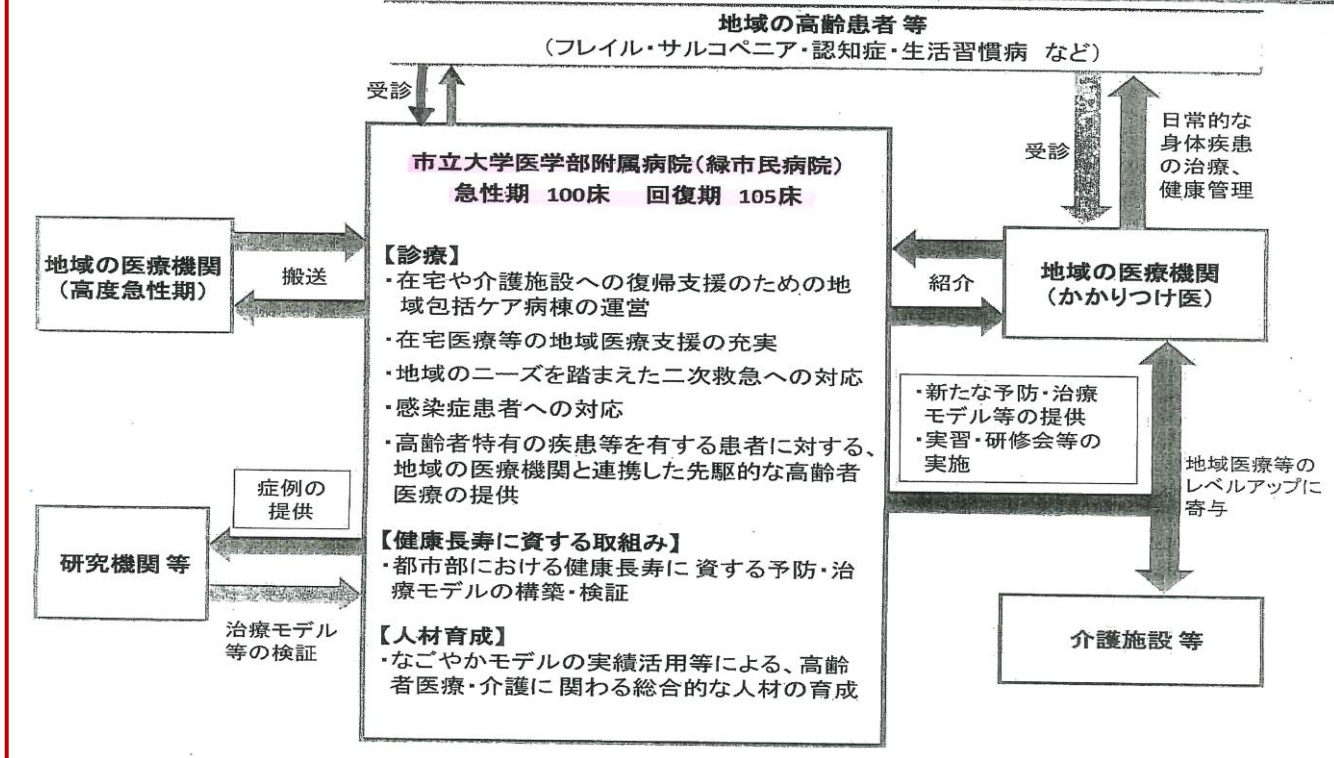
○ 健康長寿に資する取組み

- ・都市部における健康長寿に資する予防・治療モデルの構築・検証

○ 高齢者医療・介護を支える人材育成

- ・なごやかモデルの実績活用等による、高齢者医療・介護に関わる総合的な人材の育成

緑市民病院のあり方(案)



*「名古屋南部地域医療連携推進協議会」とは？

名古屋南部地域医療連携推進協議会設立趣意書

愛知県は地域医療構想策定ガイドラインに沿って平成28年10月に地域医療構想を公表し、今年度はここで決まった11の圏域ごとの協議が始まっています。しかし、240万以上の人口、137の病院、130の有床診療所を擁する名古屋・尾張中部圏域においては、その規模の大きさ故、自主的な協議の開始が遅れていました。そこで、5病院団体協議会の関係者で準備し、7月11日に自主的な協議を行うための「名古屋・尾張中部圏域地域構想検討会」を開催し、さらに地域で顔の見える関係を構築するため名古屋東部、名古屋西部、名古屋北部・尾張中部の3地域では、地域医療連携推進を目的として協議会などが設けられ話し合いが始まったところ。名古屋南部においても、8月10日に拡大南区病病連携会の講演会時に、名古屋市南部を中心に知多半島北部の病院からなる協議会設立を提唱し、多くの賛同が得られました。愛知県は各医療圏における自主的な協議の費用の一部を、次年度から補助することを検討中ですが、名古屋医療圏に関しては協議が東西南北4地域で開催されることを前提に全県で14の協議会に均等に予算を配分すると聞いています。

このように名古屋南部地域を中心とする協議の場合も愛知県に公認された事と解釈できます。しかし、この協議会の設立の目的は、地域医療連携推進法人の様なグループ経営を目指すのではなく、また国の目指す地域の病床数とその機能を見直すことにも限定せず、患者が真に安心して医療を受けられる事を目標に地域で連携を組み、目標達成のためにいくつかの具体的行動に取り組む事にあります。さらにその成果を地域医療構想調整会議の中に反映することが出来れば、理想的な地域医療構想が達成できると考えられます。

皆様におかれましては、是非ご参加いただけますようお願い申し上げます。

名古屋南部地域医療連携推進協議会発起人(平成29年9月19日 順不同)

名古屋掖済会病院	河野 弘
中部ろうさい病院	加藤文彦
熱田リハビリテーション病院	伊藤知敬
中京病院	絹川常郎
大同病院	小谷勝祥
新生会第一病院	小川洋史
名古屋記念病院	長谷川真司
南生協病院	長江浩幸

* 地域医療構想における各構想区域の審議は、名古屋市内の場合は『名古屋・尾張中部構想区域推進委員会』が正式な審議の場であり、この『名古屋南部地域医療連携推進協議会』は、非公式な、集まり・協議会とも言えます！ また、名古屋市が、緑市民病院の経営方針をどこにも図らないまま、協議会で突然、方針を説明し、了承を得ようとする事は、手続き上も背信行為です！